

# 海上交通の要衝にある海城「大崎城」

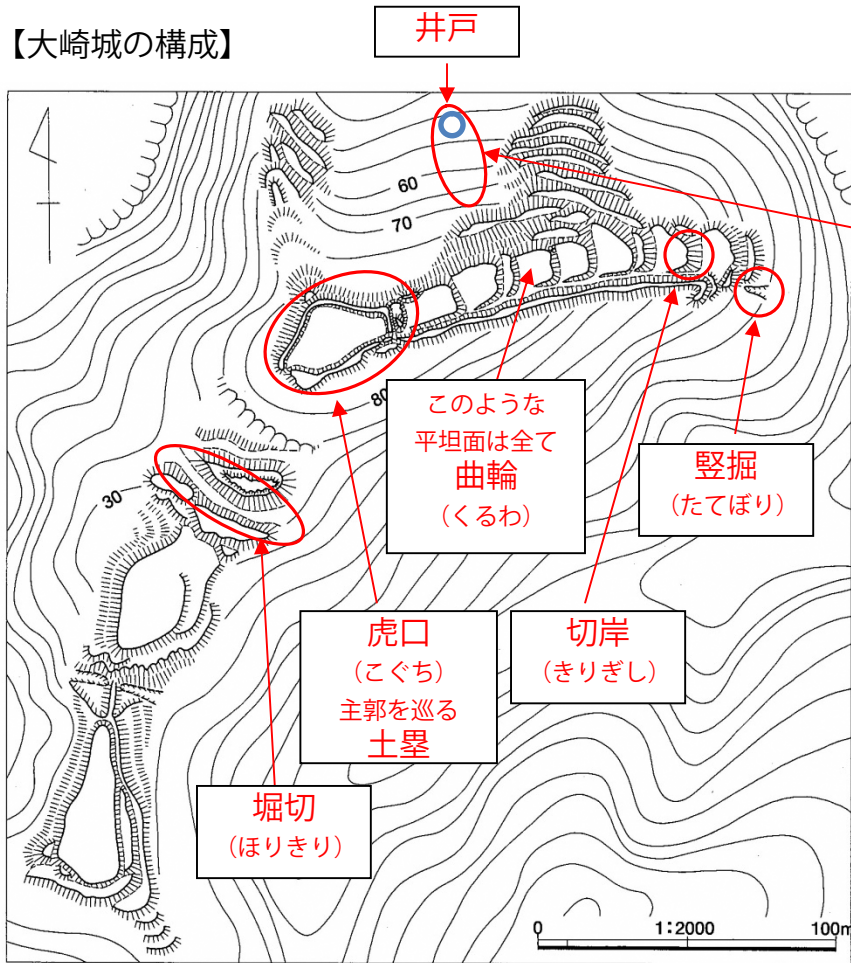
2019.11.17 大崎城ウォーキング資料

## 【大崎城とは】

大崎城は、伯耆国東端にある河口城（泊城）と並び、因幡・伯耆を結ぶ海上交通の要衝にある海城として重要視されていました。最初は因幡国守護山名氏方の城で、次は毛利氏、その後は織田氏、そして、また毛利氏と空城となることなく常に時の一大勢力の傘下に置かれました。

このように、常に攻撃対象とされる城であったため、城の縄張り（構成）も複数の曲輪、堀が広範囲に造られる堅固な城となっています。

## 【大崎城の構成】



井戸への道（海側斜面）



井戸



## 「因伯古城跡図志」（1818年）にある大崎城跡

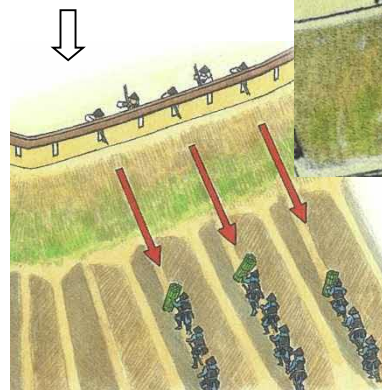
北側（海側）から主郭（頂上）に続く曲輪群がよく分かります。今日でも現地でこの曲輪群を確認することができるほど、大崎城は非常に残りのよい城館跡です。

〔山城の施設例〕



〔『城館調査の手引き』山川出版 より〕

・豎堀  
横に広がって攻撃され  
ないための堀



・切岸  
↑  
人工的に造った急斜面  
で敵を登れなくした上、  
上部から攻撃するための施設

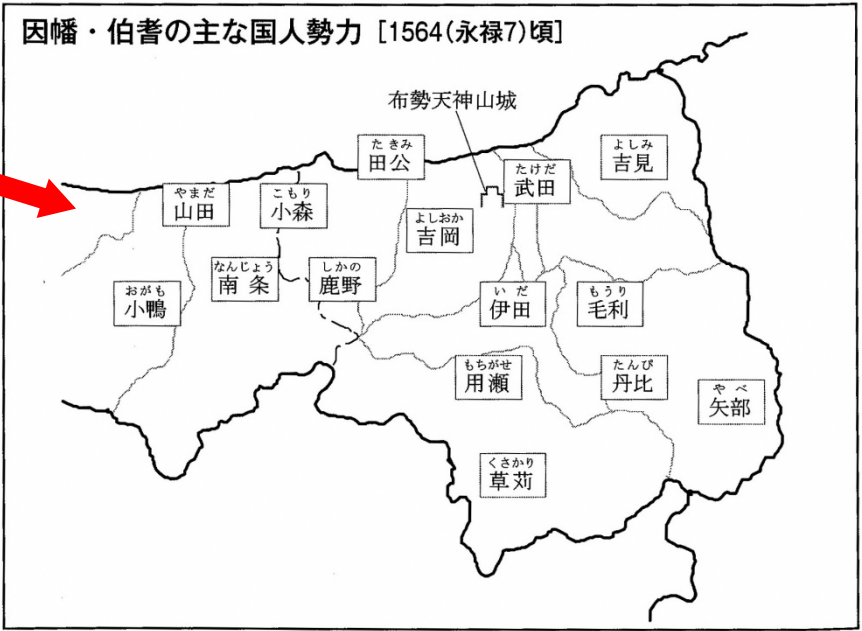
〔『山城ガイド』Gakken より〕

【大崎城の主な来歴】

<p>1544年(天文13)</p>	<p>尼子晴久が3万余で因幡攻めを行った時、因幡守護の山名方であった大崎城も攻撃対象とされた。 大崎城方は3万の軍勢の前に降伏、その後、尼子軍は鹿野城に進軍。鹿野城の鹿野入道を含め300人が討ち死にし、鹿野城は落城する。 (『陰徳太平記』)</p>
<p>1581年(天正9)</p>	<p>毛利方であった大崎城は、織田方松井水軍に攻められている毛利方河口城(泊城)を救うため援軍を派遣。しかし、松井水軍に敗れ、山下を焼かれる。この時、毛利方は河口城(泊城)に停泊していた65艘の船を失う。 (「細川家文書」)</p> <p>これにより、兵糧がなくなっている鳥取城への海路からの支援ルートを毛利方は失い、1ヶ月後、鳥取城は落城する。</p> <hr/> <p>鳥取城落城後、吉川元春に攻撃されている羽衣石城の南条元統の救援に向かう羽柴軍が大崎城近辺を通過。大崎城城主樋土左衛門は、羽柴軍に降伏することなく城の備えを固め、迎え撃とうとする。降伏しない土左衛門の義心を羽柴秀吉は誉め、その後、宮部継潤を通じて降伏してきた土左衛門を許し、宮部の与力とした。 (『因幡誌』)</p>
<p>1582年(天正10)</p>	<p>織田方となった大崎城を吉川元春が攻撃する。大崎城の木下民部大輔はじめ800余騎が立て籠もり応戦したが、夜に始まった合戦は、翌朝には終了。一夜にして大崎城は落城した。 (『陰徳太平記』)</p>



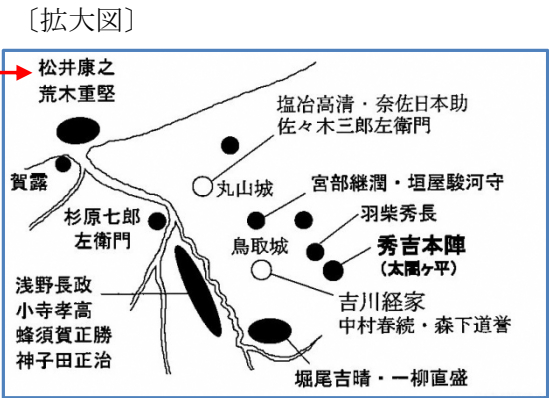
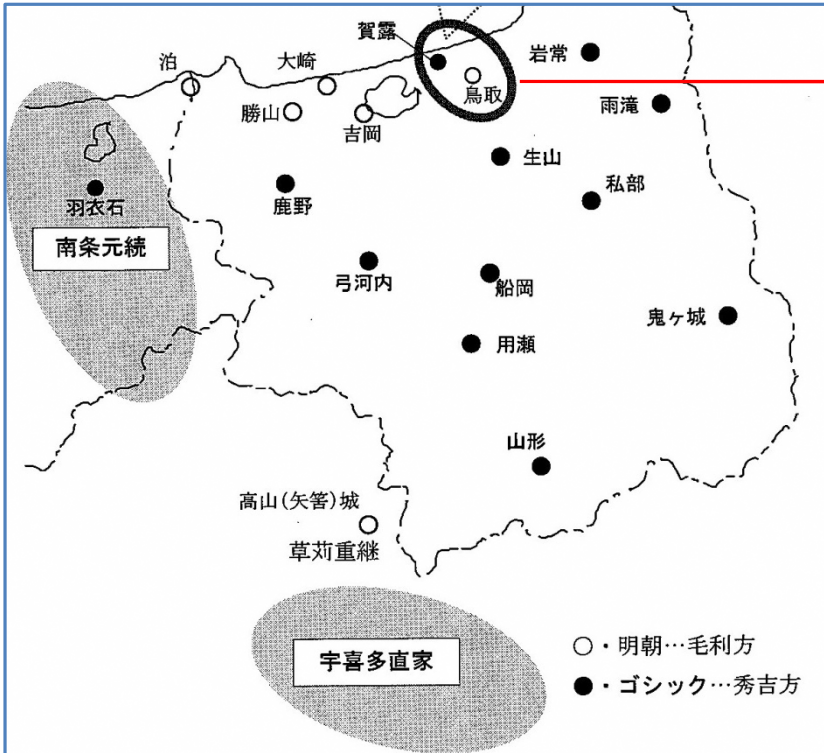
【羽柴秀吉の因幡攻め前の因幡・東伯耆の様子】



(鳥取県史ブックレット1『織田 vs 毛利』鳥取県 より)

各国人は、因幡・伯耆の守護であった山名氏の影響下、中には田公氏のように守護代となるものもあった。しかし、尼子氏の侵攻、その後の毛利方の武田氏、南条氏の因幡・伯耆支配と時の勢力に国人達は翻弄されていく。

【羽柴秀吉の第2次因幡攻め頃の大崎城近辺中世城館】



海路により鳥取城へ物資を送るため基地となる河口城（泊城）、大崎城以外の城館のほとんどが羽柴秀吉方（織田方）となっていることが分かります。

(鳥取県史ブックレット1『織田 vs 毛利』鳥取県 より)

## 16世紀の因幡・伯耆年表

西暦（和暦）	主な因幡国・伯耆国の動き
1544（天文13）	尼子晴久、 <b>大崎城（山名方）</b> 、鹿野城を攻撃。
1562（永禄5）	毛利元就、出雲、伯耆に進出。出雲の白鹿城、伯耆の淀江港、尾高城、河岡城を押さえる。日野衆、南条氏と手を結ぶ。
1563（永禄6）	鳥取城の武田高信、天神山城の山名豊数に反乱、毛利氏と手を結ぶ。
1566（永禄9）	富田城の尼子義久、毛利氏に降伏。毛利元就、日野郡を直轄地、東伯耆を南条氏、因幡を武田氏を通じて支配する。
1569（永禄12）	尼子勝久、山中幸盛（鹿介）、尼子家再興のため伯耆で挙兵。（但馬の山名祐豊が援助）
1573（天正元）	尼子勝久、山中幸盛（鹿介）、鳥取城、私都城、若桜鬼ヶ城を攻略し、私都毛利氏、矢部氏、丹比氏、伊田氏、用瀬氏と手を結ぶ。
1575（天正3）	毛利氏、但馬の山名祐豊と同盟を結ぶ。
1576（天正4）	若桜鬼ヶ城合戦で尼子勝久、山中幸盛（鹿介）が敗れ、因幡・伯耆から完全に撤退する。
1579（天正7）	南条元統、宇喜多直家が織田方に寝返る。
1580（天正8）	羽柴秀長、出石城（山名祐豊の居城）を攻略、祐豊、羽柴秀吉に降伏。但馬は織田家の支配地となる。
	<b>第1次因幡攻め開始</b>
	羽柴秀吉、岩常城、若桜鬼ヶ城、用瀬城、私都城、生山城、吉岡城、鹿野城を攻略。鹿野城にいた山名豊国や因幡の国人衆の人質が秀吉の手中に入る。亀井茲矩、鹿野城の城番となる。
	鳥取城の山名豊国、羽柴秀吉に降伏。鳥取城、織田方の城となる。
	山名豊国、重臣たちにより鳥取城を追放される。
1581（天正9）	吉川経家、鳥取城重臣たちの招聘により鳥取城入城。
	<b>第2次因幡攻め開始</b>
	織田方の松井水軍、毛利方の河口城（泊城）を攻撃。
	<b>大崎城（毛利方）の河口城応援部隊も松井水軍に敗れる。</b> （毛利方、鳥取城への海路を絶たれる。）
	吉川経家、羽柴秀吉に降伏。鳥取城落城。
1582（天正10）	吉川元春が <b>大崎城（織田方）</b> を攻め、落城する。

### 【主な大崎城城主】

- ・羽柴秀吉の第2次因幡攻めの頃 : 樋土左衛門
- ・羽柴秀吉の第2次因幡攻めの後 : 木下民部大輔





# 「大崎城」縄張図

